

## 「未来を考えた洗剤」

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年04月15日

2013年の品川区の社会貢献イベントの時に手にした、とても気になるハンドソープがあった。その名は「WASH VON」。まず豊かな泡のソフトな感触に自然さが漂う。流してみるとサラサラ感だけでなく汚れが落ちていくような気持ちの良さがあった。これは、品川に本社がある東京サラヤが販売する製品で、植物由来の成分から作られた泡状石鹸である。ずっと気になりながら使用していたが、今回東京サラヤ本社を訪問し、総務部の方にお話を聞くことが出来たので報告したい。

1952年創業のサラヤは、「衛生・環境・健康」を理念とした事業を展開している。1971年には、環境への負荷が少ない植物系食器用洗剤を開発。石油系合成洗剤で河川の汚れが社会問題となっていた時代に、植物由来の原料を使用した洗剤をいち早く発売したことで脚光を浴びた。

植物由来洗剤の主な原料は、アブラヤシから搾油されるパーム油である。パーム油は食品原料としても我々の生活に欠かせないものとなっており、東南アジアではそのプランテーション拡大による問題も起こっている。

サラヤは2004年から原料調達地であるマレーシアボルネオ島の生態系に目を向け、野生生物や森を守りながら、生産者や消費者の生活も維持していく持続可能な社会のあり方について考え、行動している。

2007年から、対象商品の売り上げの1%がボルネオ島の環境保全活動に使われており、失われた熱帯雨林を買戻して森をつなぐ緑の回廊計画や野生生物の保護に努力をしていると聞きました。これが持続可能な世界を目指しているという事だと納得できました。

近年、新商品「Happy Elephant」シリーズが発売されました。これは水といきもの未来を考えた洗剤で、名前にはボルネオ島の固有種「ボルネオ象」が幸せであればみんな幸せという願いが込められています。

「Happy Elephant」の原料は、環境や社会に配慮して生産されるRSPO認証のパーム油を使用しています。天然酵母がパーム油や糖との発酵により生み出す天然洗浄成分ソホロリピッド（SOFORO）は優れた洗浄力を持ちながら、生分解性が高いため排水はすばやく地球に還ります。

「衛生・環境・健康」を軸とした製造・販売を通して、グローバルな考え方で商品を発信し続ける企業の地道な努力のあり方は、様々な商品のロングセラーを維持でき、その信用性は素晴らしいと思う。



「WASH VON」



「Happy Elephant」

平成26年4月10日  
環境記者 K (NO.120104)

---

**カテゴリ:** 平成26年度

**投稿日:** 2014年04月15日

## 青葉茂れるころになりました

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年05月20日

---

しながわ区民公園でも新緑の中をジョギングしたり、散歩するには、気持ちのいい季節になりました。緑の中で樹木の活力はすばらしいものがあります。マテバシイなどは、新緑の成長と、もうどんぐりの準備をしています。又、モミジは子孫を増やす種子の準備を始め、柑橘類ではミカンの花も咲きました。

モモは大きな実を付け、カキノキも花をつけ始めており、収穫期に向かって準備が始まりました。

ぜひお出かけになってください。



公園中央口



園内（テニスコート横）



ミカンの花



モミジ

平成26年5月13日

丸山 均（記者NO. 090105）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年05月20日

## マンションのごみ処理

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年05月20日

---

我が家のマンションでのごみ処理については、自分を含めてきちんと整理して正しくゴミ出しをしているのだろうかといつも気になっていた。

各戸に区から配布されている「ごみ・リサイクルカレンダー26年版」には、お馴染みのゴミ削減・ゴミを減らす3本の矢について記載されている。◆リデュース（ゴミを減らす）◆リユース（くり返して使う）◆リサイクル（再生利用）の3Rである。ごみ量は年々減少しているが資源回収量は平行気味なので、まだまだ改善の余地があるという。

私のところは、128世帯ある東品川のマンションである。このたび管理人さんにいろいろお話を伺う機会があったので報告したい。

大きくは、燃やすごみ・資源ごみ・陶器/ガラス/金属ごみ・粗大ごみに分けられているが、分類の仕方がわからずに置いたままになっている（放置）ものがしばしばあるという。掲示方法をわかりやすくし、分類の箱の色分けなどで工夫をしているというが、やはり管理人さんの整理整頓の手がかかっている現状のようだ。

ちらし・A4サイズの紙類などは資源ごみになるが、つつい燃やすごみとしてしまう事が多いので家庭内で工夫すればもっと簡単に資源ごみができることと思う。また「プラ」と書いてあっても小さいサイズであると、これもまた燃やすごみに入れてしまう事が多い。しかし、これも家庭内で分類すればすぐに資源がたまる。さらにプラスチック容器も汚れの判断が難しく、燃やすものに入れてしまいがちだが少量の水を流すことできれいになり資源になり得る。話を聞くと燃やすごみは減り、資源が増えることがよくわかった。

粗大ごみもマンション内でお互い共有できる物もあるので今後の課題としていきたい。

毎月第二・第四土曜日は、拠点回収（区内29か所の小学校）が行われており、古着・廃油・不用園芸土・小型家電など、今後熱意をもって協力しなければと思う。

管理人さんは、「ごみを減らすには、まず一人一人の意識からです。マンション内のごみ削減に努力していきましょう。協力していきます」と話されていました。以上、一人の行動にとどまらず、これらはマンションサロンの集まりの時に説明し、さらに共有し意識を広めていきたいと思っている。



ゴミ置き場



分類BOX

見本掲示



平成26年4月16日  
環境記者 K (NO.120104)

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年05月20日

## ふじの花を楽しむ

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年05月20日

5月4日（日）栃木あしかがフラワーパークの「ふじの花」を見に行ってきました。  
ゴールデンウィーク中だったこともあり、高速道路は停滞、現地まで3時間ほどかかり到着。  
案の定チケット売り場も混雑していました。入園料の1,700円にはびっくりです。



【紫の大藤】棚広さ1000㎡圧巻！



【大藤】樹齢150年



【ぎばな藤のトンネル】



【クマンバチ】  
ふじの花の蜜は  
美味いらしく、  
群がっていました。



【白藤の滝】上に伸ばし水が流れる様に造られた白藤、水面に映える藤は本物の滝の様に見えました。

他の花も咲いており、これだけの花々をきれいに維持管理されているので、入園料には納得です。

この他にも藤棚があり楽しめます。入園料は花の咲き具合や季節によって変動するようです。

見事なふじの花に感動！甘い香りも堪能しました。

平成26年5月12日

真壁美枝子（記者NO.080103）

**カテゴリ** : 平成26年度

**投稿日** : 2014年05月20日

## 日本の台所・庄やグループ〈大庄〉訪問

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年05月27日

---

品川の東に「大庄物流センター」という大看板があり、ひっきりなしにトラックの出入りがある物流のビルがある。一角には、お取り寄せグルメで人気の高い「MIYABI」デニッシュ食パン直売所もある。居酒屋の大庄とミヤビがどうしても結びつかなく環境記者としては気になってしまい、今回庄やグループ本部「大庄」の広報戦略室の方にお話を聞いてみた。

庄やグループ「大庄」は、フランチャイズを含め全国に860店以上の店舗網を持つ居酒屋チェーンであり、本社は南品川・大森にある。庄や、日本海庄や、やるき茶屋などは街でよく見かける馴染み深い名前である。「日本の台所」と自負するだけに、特に「庄や」は居酒屋として最も古く歴史あると理解している。「庄や」の1号店は昭和48年千代田区で開店し、40年以上続く老舗ブランドだ。それだけでなくジョン万次郎や寿司岩、マ・メゾン、カラオケ歌うんだ村もグループ店舗であり、MIYABIはその一つであることがわかった。新しい所では出店数を伸ばす漁師料理専門店「大庄水産」が人気を呼んでいる。長年継続されている店舗発想や事業展開にまずは凄さを感じた。

さて、環境記者としては「日本の台所」に関心を持ち環境に対する考えを尋ねた。「人類の健康と心の豊かさに奉仕する」という理念の基で食材の安全・安心の確保のために独自で定めた「大庄基準」に注目させられた。安全・安心を追求するために業界でもいち早く、食材の残留農薬等の検査をする総合科学新潟研究所と店舗の衛生指導を担う食品衛生研究所を自社内に置き、プロ集団で大庄基準を運用する。基準は残留農薬量が国の基準の半分以下でなければ扱わないというものや、農薬の使用量、栽培基準と栽培履歴・記帳、食品添加物、品質管理、放射能汚染確認、遺伝子組み換え作物・アレルギー表示などにまつわるもので、どれも日頃から消費者として「食の安全・安心」について問題視している内容であり実現するシステムが組み立てられている事でとても安心できると思った。知れば知るほど地球の自然環境のため、人類の健康のために設けられていて揺るぎない理念に通じていることに感銘を覚えた。

システム整備だけではなく何より実行する「人」の育成に力を注いでいる。育成に必要な環境を整備し、日本の外食産業を支える人材を輩出していることにも注目させられる。さらに近年サービス付高齢者向け住宅を開設し、理念実現に向ける熱意は留まる事を知らないようである。



庄やグループ主要ブランド



環境に優しい自然耕米契約栽培



残留農薬検査

(大庄総合科学新潟研究所)

平成26年5月22日

環境記者 K (NO.120104)



独自基準「大庄基準」10項目

1. 農産物の栽培に関する大庄基準
2. 農産物の残留農薬に関する大庄基準
3. 畜産物・水産物に関する大庄基準
4. 栽培(飼養)履歴の記載及びトレーサビリティの確保に関する大庄基準
5. 食品添加物に関する大庄基準
6. 品質確保(微生物)に関する大庄基準
7. 加工品の品質に関する大庄基準
8. 放射能汚染の安全確認に関する大庄基準
9. 安全性に懸念のある国の品目に関する大庄基準
10. 遺伝子組み換え作物の使用及びアレルギー表示に関する大庄基準

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年05月27日

## 会社の花壇の花々

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年05月30日

---

これ、会社玄関脇の花壇です。いろんな花々が咲いています。水まきをしていると通行人から「花を植えてくれてありがとう」とよく声をかけられます。担当を決めて毎日社員が水やりをしているため、花も喜んでくれているようで、5月に入り一層美しさを増しています。花は季節の到来をよく知っていて、自然の素晴らしさを実感します。



あれあれ？なんだなんだ。ねこ・・・猫がいる。

去年までアマガエルがいて、今年は猫。もう1ヶ月くらいいて、朝の涼しいときにいつもこのレモンの木の根元で通行人を見えています。家主が変わった？

平成26年5月20日

小野文義（記者NO. 090107）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年05月30日

## 広告と自然とのコラボ

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月04日

---

はじめまして、環境記者一年生の小滝と申します。

毎日通っている道でも意識しないと見つけられないものやことはたくさんあります。

そんなものを拾ってみなさまへ発信できればと思っています。

最初の投稿は・・・

「広告と自然とのコラボ」です。

山手線外回り大崎駅ホームで見つけた景色です。

この広告の位置は、後方の汚れを隠すためでしょうか？！

たとえそうであっても、広告の緑の真ん中に紫の花を添えるアジサイ。下草の緑までもがひとつの絵をつくって、電車待ちのひとときを癒してくれます。赤系の色中心のツツジやサツキが終わり、赤や青など様々な色を楽しませてくれるアジサイの季節が始まりました。雨の日にも映えるアジサイ、その七変化を観察しながら街中を歩いてみようと思います。

どんなコラボがみられるか、楽しみです。



平成26年5月29日

小滝静子（記者NO.140101）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月04日

## 「花交差点の仲間たち」春の植栽

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月06日

日時：平成26年6月1日（日）9：00～10：00

参加者：64名

南大井2丁目（大森海岸駅前～しながわ水族館入口）歩道花壇の植替えを行いました。

真夏の様な厳しい暑さの中（33℃の真夏日）、64名のボランティアは汗だくでの作業となりましたが、事前の準備もあり、皆さんの手際よい作業により40分あまりで無事終えることができました。

### ◆植栽前の地寄せ 5月25日(日)



一週間土を休めます

### ◆地寄せ後に柵を交換



木柵



レンガ柵

### ◆植栽日 6月1日(日)



植替えを待つ花たち

- ・マリーゴールド・ペンタス・日日草
- ・サルビア・メランポジウム



地拵え後に木柵からブロックに取り替えられ、お花がとても映える花壇には気持ちも華やぎます。

昨年と同じ花苗ですが、可愛い花々が花壇に並び夏から秋まで楽しめると思います。10月まで花を楽しむには、日々の手入れ（水やりや枯れた花の摘み取り）がかかせません。

平成26年6月1日

真壁美枝子（記者NO.080103）

---

**カテゴリ：**平成26年度

**投稿日：**2014年06月06日

## 緑のカーテンにチャレンジ！

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月06日

4月27日（日）品川区環境情報活動センターで環境学習講座「今年こそ緑のカーテンを作りましょう」に参加。ゴーヤは園芸店で購入した苗で数回栽培しましたが、種から栽培するのは初めてです。

暑い日が続いたこともあり、3週間ほどで発芽し5月30日には下記のように育ちました。

最初に発芽したのがアサガオですが、ネームプレートを差し込み違えたらしく、千なりひょうたんのところにアサガオに似た双葉が出てきてびっくりでした。

### 【発芽状況（割合）】

種類	種の個数	発芽
①アサガオ	6	2
②ゴーヤ	6	1
③千なりひょうたん	6	4
④大ひょうたん	1	1

ゴーヤは発芽しやすいようにカットしたのですが、カット失敗でしょうか。

ひょうたんは発芽し易いのか確率良く発芽しました。

プランターへの植替えが必要ですが、ベランダが狭いこともあり大きなプランターを準備できず、小さいもので我慢してもらうことになりました。アサガオ2苗、ゴーヤ1苗、千なりひょうたん2苗、大しょうたん1苗を栽培することにしました。アサガオの色はどんなかしら？などと・・・成長を見守っています。



アサガオ



ゴーヤ



千なりひょうたん



大ひょうたん

平成26年5月30日

真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月06日

## 運河の観察

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月12日

---

相変わらず毎週運河の観察を続けています。なぜか分かりませんが、今まで見られていたけれど、今年は全く姿を見せてくれない種類の貝があります。理由は分かりませんが、もう少し観察を続ければ何か分かるのではと、これからも観察を続けようと思っています。東京湾奥への潮の流れ込みが、昨冬よりも今冬の方が弱まっているのも原因と見ていますが、人間活動の影響の方が大きいのかもかもしれません。

写真は小さな貝をつまみ出すための竹ピンセットです。

廃材の竹を使って作っただけの簡単なピンセットですが、色々な材質のものを組み合わせるなどしてこのように作ってみました。竹だけで作ったものが最良でした。



平成26年6月10日

青野良平（記者NO.070103）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月12日

## 「祭りのあと」-品川神社と荏原神社

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月15日

---

梅雨の中休みでしょうか、昨日と今日は雨が降らなかった品川地区。先週末の品川神社と荏原神社の例大祭のあとを歩いてみました。

### 品川神社

境内では、露天商のみなさまが忙しく後始末をされていました。

そんなあわただしさをよそにすまし顔の恵比寿様とにらみをきかず狛犬が紫陽花をはさんで写真に納まってくれました。

### お神輿

旧東海道の公園ではお神輿の解体作業中でした。雨の中、大勢の人々にかつがれ勇ましく上下したお神輿。ひとつひとつ汗をぬぐい去って次の出番まで休むための準備をしているのでしょうか。お疲れさまでした。

### 荏原神社

鳥居の前を掃き清めているおじさんと国旗だけがお祭りの名残り。普段と変わらぬ静かな緑美しい荏原神社でした。

威勢のよい声がまだ耳に残っている私たちを残して、街はいつもの清楚で緑豊かなたたずまいを取り戻し、お参りにくる人々を待っていました。楽しむ時は思いっきり声をあげ、終わればきっぱり元に戻る。粋な旧東海道のお祭りのあとのひとときでした。



平成26年6月10日

小滝静子（記者NO.140101）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月15日

## フラワーランタン

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月15日

---

花の講習会でフラワーランタンを作って楽しみました。

自分が育てて咲いたパンジーの花を使った卓上ランプです。

ロウを溶かした中に、水を入れたゴム風船を浸し、表面に花を付け、また浸します。水桶の中に、ロウの付いた風船を入れ、風船の口を切り落とすと出来上がりです。

町会の文化祭（毎年11月開催）に出展したくなるほどの出来栄で、全員満足しました。



また、男女ともに使える「アロエ化粧水」（下写真）を作りました。

焼酎（35度以上）で洗って拭いたアロエを入れ、4ヶ月熟成すると出来上がります。

アロエ（約40個）は、会員宅からいただき、お礼にアロエを漬けた化粧水をお渡しし、喜ばれました。町会の文化祭には、来場者におすそ分けしようと頑張って作りました。



平成26年6月9日

志賀 勝（記者NO.060110）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月15日

## 花いっぱい運動

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月15日

平塚二丁目町会の「花いっぱい運動事業」をご紹介します。

本事業は「環境にも人にも優しい街づくり」を目的として5年前にスタートしました。

土は植木鉢の中で硬くなった土と、日常発生する生ごみを乾燥させて一緒に混ぜ、4ヶ月間攪拌し、熟成して再生利用しました。花については、育てた花苗の種を収穫し、翌年蒔いて、花苗を育てました。これを再生土壌と一緒に町会内に配布してきました。

このようにして「循環型E C O」が完成、定着しました。



収穫した種（宇宙朝顔の種・青紫蘇・銀杏（地元星薬科大学構内で銀杏拾い））を蒔いて花苗に育てました。希望者全員に配布出来ました。

宇宙朝顔は、宇宙に行ってきた朝顔（の種）の子孫です。

淡い青の中に宇宙を思い、宇宙を見ることが出来ます。

また、品川区より当町会の「花いっぱい運動」に対し、花苗助成（600株）を受けました。花苗は、E C Oプランター貸出先に再生土壌と一緒に配布し、植えていただきました。

家々の道路側に「品川区協働事業 花いっぱい運動 平塚二丁目町会」と書いてあるE C Oプランター140基に植えられています。

花を育て、花に育てられながら、夏を乗り越えて、秋祭りを迎えたいものです。

5月29日から6月1日に渡って取り組んだ行事の紹介です。

熟成土壌づくりをはじめ、「花いっぱい運動」は、花と緑の部とファーマーズクラブの13名が、活動し取り組んでいます。



平成26年6月9日  
志賀 勝（記者NO.060110）

---

**カテゴリ:** 平成26年度

**投稿日:** 2014年06月15日

## 「花交差点の仲間たち」花ロード祭り

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月20日

---

6月15日（日）「花交差点の仲間たち」でクラフトづくり（ラベンダーの編み込みと石鹸デコパージュ）を開催しました。

ラベンダークラフトづくりは10年目を迎えましたが、ラベンダーを使ってのクラフトづくりは今回で最後となってしまいます。ボランティアが育てたラベンダーが、地域のコミュニティづくり、人々の出会い、仲間との絆を深めることに役立ってきました。

勝島運河の土手をお借りしてラベンダーを育てクラフト作りを開催していたが、「しながわ花街道プロジェクト」方針変更により、芝桜を植える事になりラベンダーの苗木を撤去することになりました。

10年間やってきて一つの区切りになりました。

花街道は指定された花と、その他自由に植えた四季折々の花が咲いており、散歩も楽しみの一つでしたが、残念です。他からのラベンダー調達も考えましたが、やはりボランティアが育てることによる意識高揚が大きかったです。

思い返せば蝶の道花街道は、いろんな花々やラベンダーにアゲハ蝶などが、優雅に舞っている記憶に残る風景でした。いままでに作ったラベンダースティックなどを持寄り、これまでの10年間を振り返りながら楽しい時間を過ごしました。

「しながわ花街道」で出会った地域の方のご協力にも感謝しています。

「花交差点の仲間たち」

# 花ロード祭り

## クラフトづくり

ラベンダー&石鹸テコバージェ

日時:2014年6月15日(日)  
場所:ライオンマンション大森エントランス  
主催:花交差点の仲間たち  
参加者:41名



運河での栽培ができなくなり、  
ラベンダークラフト作りは  
残念ながら今年が最後に！！

前日に新島運河花街道で  
ラベンダー摘み取り

蝶の道花街道のシャコウアケハ



\*ラベンダークラフトづくり



\*石鹸テコバージェづくり



因柄選びで華やきました！  
近隣ののに今回が初めての参加です。



\*歩道に植えた数株のラベンダーから採った  
仲間の輪！みんなの笑顔(〇)宝物です！  
10年間ラベンダークラフト作りにご参加いただき  
ありがとうございました。(スタッフ一同)

平成26年6月18日  
真壁美枝子 (記者NO.080103)

カテゴリ:平成26年度  
投稿日:2014年06月20日

## このごろの太陽光発電

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月25日

### <品川区の最近の動向>

2年ほど前に、エネルギーダイエットと題して家庭でできる節電対策をシリーズで書きました。昨年1年間は太陽光発電に没頭していたため、記事を書けませんでした。その間に様々なネタをため込むことができましたので、少し書くのを再開したいと思います。

太陽光発電は、再生可能エネルギーのホープとして、特に東日本大震災、原発事故以後、話題に上ることが多く、国や自治体による多様な助成策により、住宅用システムからメガソーラーと呼ばれる産業用の大規模なものまで設置が大いに促進されたことはご承知の通りです。

グーグルアースというインターネットの地球儀サービスを使って、品川区のあちこちを上空から眺めてみますと、下の写真のように、戸建て住宅の屋根やビルの屋上に、太陽光発電システムが設置されているのが目立つようになってきました。



地上を歩いていても、屋根の上など高いところに設置される太陽光発電システムは見えにくく、こういうふう上空から鳥瞰してみないとなかなか実態に気づきにくいものです。

太陽光発電システムは、その規模を最大発電能力、kW（キロワット）で表します。

住宅用では、価格が値下がりするにつれて次第に設置規模も大きくなり、5kW近くが全国平均です。しかし、品川区のように都会で、地価が高く住宅が密集している地域では、屋根の面積が小さかったり、方角が最適ではなかったり、隣地の建物の陰が影響するなど、平均的な設置規模も3~4kWと小さくなるのが実情です。右上の写真のなかの黄色の円で示したシステムが、ちょうどそのようなサイズです。郊外の屋根が大きな住宅に設置されるシステムより、若干割高になってしまうのは仕方ありません。

しかしながら、このように増えてきたということは、設置するメリットが一般にも広く認知されてきたということだと思います。

住宅用の普及は、補助金制度でかなり後押しされましたが、5年間続いた国の補助金は、残念ながら今年の3月末で終了しました。それと同時に、多くの自治体も補助制度を取りやめてしまいましたが、嬉しいことに品川区はこれまで同様に補助制度を継続しています。

?太陽光発電システム設置のための助成制度のご案内（品川区ホームページ）

<http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/hp/menu000021800/hpg000021791.htm>

3kWが上限の最大9万円の助成額で、6月16日現在で50件の予算枠で45件も残りがあるようです。

補助金の取りやめで販売が落ち込むことをおそれて、太陽光発電システムのメーカーや設置業者はより値下げを強化しているようですから、品川区民にとってはチャンスが継続しているといえるでしょう。

東京都は補助金のかわりに、今年度から「東京ソーラー屋根台帳」（ポテンシャルマップ）

<http://tokyosolar.netmap.jp/map/>という便利なサービスを開始しました。地図から我が家を探して、どのくらい太陽光発電や太陽熱利用に適しているかが一目瞭然にわかるものです。



このサービスを提供している「TOKYO太陽エネルギーポータルサイト」

(<http://www.tokyosolar.jp/>)には、このほかにも太陽エネルギーの基礎知識などの情報が掲載されていますから、設置業者に頼む前に自分で調べることができて便利です。

平成26年6月24日

林 彰一（記者NO.120101）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月25日

品川区みどりと花のボランティア活動に参加しています。

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月27日

品川区みどりと花のボランティア活動に参加しています。活動拠点は北品川にある聖蹟公園です。

活動としては年3回から4回の花壇の花植え替えと毎週金曜日の朝、公園内清掃ゴミ拾いです。

会社有志を募って活動名「品川フラワーレンジャー」で楽しくやっています。

以下、その様子です。

(撮影：2014.05.16)



公園入り口の様子。



管理している花壇です。



公園中央の様子。

朝9時過ぎに撮影したため人がいませんが、お昼休みには会社員が休憩に来る姿を見られます。夕方日が沈むまで子供たちが元気よく遊んでいます。

花壇はもうそろそろ夏の花に植え替えようか・・・な。



今日は花植え替えではなく、毎週行っているゴミ拾いです。



結構、タバコの吸殻が捨てられています。目につくところに捨てるのを気にしてか、茂みなど奥にポイ捨てる方が多くいます。

平成26年5月16日

小野文義（記者NO. 090107）

---

**カテゴリ：**平成26年度

**投稿日：**2014年06月27日

## ‘エコライフ・フェアMINATO2014’を見て来ました

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月27日

---

2014年5月24日（土）、港区の有栖川記念公園で開催された‘エコライフ・フェアMINATO2014’を見て来ました。職場から近いので昼休みを利用しての見学で、ゆっくりは見られませんでした。お昼の時間帯にも関わらず多くの人が訪れていました。

テーマとしてはエネルギー、生き物、リサイクルで、フリーマーケット等は環境の大切さを訴えていました。また清掃局はゴミの分別の大切さを強調していました。分別ゴミからの再利用方法、パネル展示もありました。私も仕事の関係でゴミを扱っていますので、多くの人がもっと分別をきちんとやって頂けたらと感じました。私以上に清掃局等、直接ゴミに関わっている人達が切実に訴えている事が感じられる展示会でした。

「この位なら」といった安易な気持ちで、大量に集まれば大きく影響を及ぼします。一人ひとりがもっとしっかりと分別をしてくれれば、環境に与える影響は小さく出来ると思っています。



海の温暖化については、三浦半島などで近年は変化が出て来ていて、以前は見られなかった又は

非常に稀にしか見られなかった貝が、今は結構見受けられる様になって来ています。

南方種のタカラガイの類、マガキガイの幼貝多数（ただ現在は幼貝のみで大人迄成長は出来ていません）、トミガイの出現等変化が出て来ています。この傾向は房総半島でも見られています。

長い間、色々な場所の貝をずっと見て来て温暖化しているのを感じています。

平成26年5月28日

青野良平（記者NO.070103）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月27日

## 西中延三丁目町会で花を楽しもう

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月27日

---

6月5日（木）小雨交じりの中、西中延三丁目児童遊園で「花の植付け」を行いました。

小さな公園ですが、昨年、品川区のご協力のお陰で、今まで大きな石に囲まれていた公園の石を移動させて広くして、町民の輪投げや祭礼時の神酒所等に利用したり、花壇を設置したことによって、町内のボランティアが定期的に「花の植付け」を行っています。

殺風景な小さな公園が明るい光景に生まれ変わりました。



平成26年6月10日

中西義治(記者NO.060108)

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月27日

## 「ビルとビルの間隙の縦長アート」

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月27日

---

夏至をすぎて梅雨寒が戻ってきました。  
今日は梅雨らしく雨模様の日的一天のようです。雷まで鳴っています。  
天王洲アイランド駅一帯は背の高いビルが林立しています。運河沿いや林立するビルのあいだにはひとびとが憩うスペースも確保されています。手入れが行き届いた花と緑たちが仕事に疲れたひとびとを和ませてくれます。  
ところであなたはビルの裏側を通ったことはありますか？  
紫陽花が隣のビルの壁やパイプと一緒にアートしている場所を見つけました。このスペースは完全にビルの裏側。写真に写っている壁やパイプも背中合わせのビルの裏手。人が肩を傾けずにすれ違える程度の歩道に首（こうべ）を垂れている紫陽花からは「わたしはここで咲いていますよ。」という声が聞こえてきそうです。めったに人が通らないこんなスペースにもひとびとが作った建造物と自然とのコラボを見ることができました。



このビルの名称は天王洲セントラルタワー。1階にはアートホールがあり、無料でさまざまな分野のアート作品をみることができます。ただし、土・日は休館です。

平成26年6月24日

小滝静子（記者NO.140101）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年06月27日

## 大井町自然再生観察園 ホタルの夕べ

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年07月03日

---

6月7日-8日と、大井町自然再生観察園にて、ホタルの夕べを実施致しました。当日は、雨にも関わらず、多くの方に足を運んで頂き、6日の東京農業大学と連携し実施したオープンカレッジの参加者も含め、3日間で1000人ほどの方に来園して頂きました。6-7日の雨の中では、ホタルは飛翔することは出来ませんでした。葉の上や木の枝にくっついて光っておりました。8日は、小雨〜くもりの天候となり、3日間の中では1番飛翔が見られた日となりました。また、交尾も確認されたため、ホタルの自生へ向けて着々と命をつなげている様子が見えがえします。



3月第2週に行われたホタルの放流の様子



平成26年6月25日

小澤 良水（記者NO.130105）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年07月03日

## 第24回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2014年07月18日

平成26年6月25日(水)、第24回環境記者情報交換会が開催されました。

平成26年度1回目の今回は、初参加の小滝さんをはじめ11名の記者の皆さんが出席されました。また、佐山さんがアドバイザーとして参加してくださいました。

環境記者の皆さんに各自活動報告をしていただきました。

### 【志賀さん】

平塚二丁目町会の「花いっぱい運動事業」は「環境にも人にも優しい街づくり」を目的として5年前にスタートし、現在では、使用済みの土と生ゴミを熟成して再生した土壌を使い、育てた花苗の種を収穫し翌年蒔いて「循環型E C O」が完成、定着しています。品川区より当町会の花苗助成（600株）を受けました。家々の道路側に「品川区協働事業 花いっぱい運動 平塚二丁目町会」と書いてあるE C Oプランター140基に植えられています。年4回花の講習会を開催していますが、6月はフラワーランタンを作って楽しみました。

### 【青野さん】

長い間、色々な場所の貝をずっと見て来て温暖化しているのを感じています。‘エコライフ・フェアMINATO2014’に行ってきました。清掃局はゴミの分別の大切さを強調していました。「この位なら」といった安易な気持ちで、大量に集まれば大きく影響を及ぼします。一人ひとりがもっとしっかりと分別をしてくれれば、環境に与える影響は小さく出来ると考えています。

### 【真壁さん】

相変わらず花ボランティア活動に追われています。ボランティア活動の中で6月は一年で最も忙しい時季です。6月1日は年2回の歩道花壇の植栽をし、8日は勝島運河花街道にコスモスを植え、15日は「花交差点の仲間たち」でラベンダーを使ってクラフトづくりをしました。ラベンダーを使ったクラフトづくりは10年目になりますが、「しながわ花海道プロジェクト」でラベンダーの生育をやめるため、今回で最後となります。今年、環境講座「今年こそ緑のカーテンを作りましょう」に参加し、種から発芽するか心配しながら見守りました。

### 【丸山さん】

しながわ区民公園の管理をしています。花が実になる季節でみかん、あんず、レモンなどがなっています。タケノコを大量に取って運び去る人、青梅を取るために木に登って枝を折ってしまう人がいて困ります。子どもの遠足シーズンに毛虫が繁殖し駆除を求められますが、自然のあるべき姿も大切にしたいし、バランスが難しいところです。



### 【新居崎さん】

福島の南会津町で農業をはじめて18年になります。震災後、現地の農家はいまだに厳しい状況にあります。所属する東京都行政書士会で12月に福島復興イベントを開催します。今年が三回目でテーマは「福島から世界へ」です。また、荏原町の町づくりの活動に関わっています。

### 【林さん】

武蔵小山の環境を考える会の事務局長をして町づくりの活動をしています。地元以

外では、横浜港北区大倉山のエネルギー問題、伊豆の太陽光発電、相模原藤野町の間伐などに関わっています。太陽光発電では、緑との共存、ソーラーシェアリングを進める動きがあります。昨年3月より農地条件付きで畑の上に太陽光の装置を設置できるようになりました。

**【海さん】**

環境問題に熱心な企業を取材していきたいと考えています。今まで「サラヤ」や「大庄」に出かけて話を聞きました。また、よその区で環境情報活動センターのような活動をしている施設を訪問して活動の様子を知りたいと思います。

**【西川さん】**

町づくりに関心があります。この場で皆さんのお話を聞いて、軋轢を恐れず積極的に動くべきだと思いました。山梨足利村の日本スズランを見に行き良い経験をしました。



**【石田さん】**

朝顔が育って種が取れたというような身近なところから環境問題を考えていきたいと考えています。

**【小澤さん】**

小野学園女子中学校の生態環境調査委員会の顧問をしています。「都会における自然環境の復元」をテーマに、ホタルの自生を目指して大井町自然再生観察園でゲンジボタルの飼育をしています。6月7日、8日とホタルのタベを実施し、6日のオープンカレッジも含めて3日間で1000人の来園者がありました。

**【小滝さん】**

5月末に記者登録をし、いくつかの記事を投稿しました。毎日通っている道でも意識しないと見つけられないものやことはたくさんあります。そんなものを拾ってみなさまへ発信できればと思っています。



それぞれのグループ、または個人で意欲的に活動している様子や興味をもっている事柄についてご報告いただきました。和気藹々とした雰囲気の中、意見や情報の交換が活発に行われ、話は空き家、ゴミ屋敷対策や道路整備計画にも及びました。今回も実りある情報交換会になりました。

---

**カテゴリ：**◆情報交換会

**投稿日：**2014年07月18日

## 緑のカーテンにチャレンジ！その後

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年07月29日

種から育てたひょうたんや朝顔が、7月に入り花を付け始めました。

ひょうたんとゴーヤは、受粉が必要と教わりやっではみたものの、すぐに花が枯れてしまい一向に実になりません。

なり物は失敗の様です。失敗原因に思い当たることと言えば、プランターが小さいことと栄養不足でしょうか！？

ひょうたんは、白色の5◇ほどの花を付け、花のうぶ毛も可愛いです。



朝顔は7月6日に開花し、毎朝2、3輪花を咲かせます。10◇もある大輪の朝顔です。

花の色は朝方、濃いブルーですが、午後になると赤紫色に変わってきます。

初めて気が付きました。



午前中



午後3時ごろ

今年は朝顔の色の変化を楽しみながら、緑のカーテンで涼を感じています。



平成26年7月24日  
真壁美枝子（記者NO.080103）

---

**カテゴリ:** 平成26年度

**投稿日:** 2014年07月29日

## 東品川二丁目の景観、ただいま進化中！

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年08月06日

朝、散歩をしていてふと気がついたことがありました。

「あれっ、ビルの壁に窓がある！！！」

普通のビルなら当たり前のことです。でも、このビルはもともと窓がなかった壁を濃いグレーに塗り替え、そこに窓らしき模様を書き込んであったのです。



別の日にまた、気がつきました。

「あっ、窓の形が違う！ それに色までついている！」

「これって何？ 何か意味があるのかなあ？」

ということでビルの所有者である寺田倉庫さんに尋ねてみることにしました。



突然の訪問にも関わらず広報の阿部垂祐未さんが快くご対応くださいました。

わかったことは次のとおりです。

倉庫はもともと窓がない構造で重苦しくなりがち。模様を付することでこれを緩和。

寺田倉庫さんのロゴマークが△に階段のマークから『』に変わり、ビルの外壁や看板等のロゴを順次変更している過程とのこと。

新しいロゴマークは「余白の創造」をテーマとしているので、ビルの模様も色もどんどん創造し、ますます進化する可能性があるとのこと。



お話を伺ったあと、もう一度街を見回すと「なあるほど」と思う空間に出逢いまし

た。



東品川二丁目界隈の景観は目下進化中のようです。

平成26年8月1日

小滝静子（記者NO.140101）

---

**カテゴリ**：平成26年度

**投稿日**：2014年08月06日

## このごろの太陽光発電（その2）

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年08月07日

### <ソーラーシェアリング（1）>

今回は、品川区の最近の動向として、衛星写真などを眺めながら太陽光発電の普及が進んでいる状況、都会でもまだまだ屋根に設置できる余地があることを「TOKYO太陽エネルギーポータルサイト」を見ながらご紹介しました。

今回は、都会を離れて、郊外の農地に目を転じてみたいと思います。私が所属するNPO法人 太陽光発電所ネットワーク（略称 PV-Net）にて、6月11日と7月6日の2回、それぞれ千葉県大網白里市/市原市と静岡県伊豆の国市で行われたソーラーシェアリング見学会に参加してきた報告です。

「ソーラーシェアリング」は、ソーラー=太陽を、シェアリング=分かち合う、という意味の造語ですが、手短かにいえば「太陽の光を太陽電池と植物（作物）でうまく分け合って、発電（売電事業）と収穫（農業）を両立させる」ということです。「農電併業」という表現をする方もいます。どんなものかは、まず下の写真をご覧ください。



これらの写真は、スマートライフ発電所さん（静岡県伊豆の国市奈古谷、発電規模44.16kW）のソーラーシェアリングの設備で、7月6日に撮影したものです。ちょうどその3日前に東京電力に系統連系し（売電のためにメーターを取り付け電線につなぐこと）、発電所として稼働を始めたばかりの出来たてはやの発電所です。907.5のサトイモ畑に地上高2mの架台を組み、細長い太陽電池

（1m47cm×50cm）を、すきまから光が畑にもれるように設置してあります。5月の連休明けに作付けたというサトイモが、この環境下でこんなに元気よく生育している現実に驚かされました。（私はサトイモが大好きですから、秋の収穫時期に再訪してこのサトイモを買いに行こうと思っています。）



上の写真は、ハンドルを回し太陽電池の角度を変えているところ。この機能は、畑への日光量を調節したり、台風や大雪の際に、影響を最小化したりすることができるという優れたものです。自信を深めたオーナーの浅賀さんは、あと2つの隣接区画で、稲作と畑わさびに挑戦するとのことでした。

農地は、日本の低い食糧自給率の現状からも理解されるように、私たちの生存に関わる根源的で重要な資源です。ですからその使用や売買に関しては、「農地法」によって厳しく制限されてきました。しかし、ソーラーシェアリングという農業をベースにしながら、収穫にほとんど影響を与えないで太陽光発電を行う試みは、一定の条件を付けたうえで「一時転用許可」されるという、農水省が平成25年4月1日に公表した新制度のもとで可能となる道が開けました。

(<http://www.maff.go.jp/j/press/nousin/noukei/130401.html>)

このあたりの詳しいことは、また次回にでもご紹介したいと思います。

平成26年8月1日

林 彰一（記者NO.120101）

---

**カテゴリ：**平成26年度

**投稿日：**2014年08月07日

## 使用済みの空き缶から「缶アート」

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年08月21日

『夢のイストワール展 part 3』が、2014年7月4日（金）から9日（水）まで、O美術館で開催され、自由な創意や個人の夢で表現された素晴らしい作品がたくさんある中に、私達が日常生活でゴミとして捨てている物が、まるで魔法の手にかけてられたかのような素晴らしい造形作品「缶アート」として姿を変え、展示されていました。

『缶響造形』津田のぼるさんの作品は、ビールや粉ミルク等の空き缶を集め、切ったり、貼ったり、重ねたりし、沢山の色や創意を重ね、3メートルもあるランプや飛行船・乗り物等として展示され、神秘的・空想的作品の中にいると、まるで夢の世界、未知の世界にでもいるようなときめきを感じました。



また、パソコン・テレビ受像機・ファクシミリ・扇風機・携帯電話・プリンター・ビデオレコーダー・石油ストーブ・ラジオ・アイロン等、身の回りにある便利だった家庭製品も、壊れたり、「寿命」が尽きたらただのゴミ。このゴミを新素材として作品に利用したとおっしゃる工藤重雄さんの作品『もったいない+アート』の数々の展示品に触れることも出来、手に持った時「これが家庭ごみ……？」とは想像が出来ません。リユースの大切さを感じさせられました。



平成26年7月30日

環境記者 石田雅子 (NO.120102)

**カテゴリ:** 平成26年度

**投稿日:** 2014年08月21日

## 大井ふ頭中央海浜公園の夏のある日

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年08月22日



東京モノレールで大井競馬場前駅から徒歩10分以内のところ、運河沿いにある大きな公園で、釣り・磯遊び、バーベキュー、野球場、雑木林、芝生の広場など様々なシーンで楽しめる都立の公園です。



コノシメトンボです。図鑑を開くと日本全国に生息と書いてあります。でも街中ではみられなくなったなー……。今から50年前、昭和40年頃は、洗濯紐にずらり並んでとまっていたことを思い出しました。



園内「はげつき磯」「みどりが浜」方面へ歩いて行くと、親子で川の浅瀬で遊んでいる風景や釣りをする風景に心がいやされます。時間帯のせいかわか懐かしい、自然を感じさせる景色でした。

歩いていると、蝉が顔にあたるほどたくさんいて、木によっては、低いところに10匹以上、食いものにたかる蠅のようにいました。この時期に公園を歩いたことがないので驚きです。

平成26年8月8日（金）15:30撮影

小野文義（記者NO. 090107）

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年08月22日



## イチヨウと杏子の苗を町会で育てています

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年08月28日

---

星薬科大学科学コンテスト（平成25年10月5日）で、平塚二丁目町会サイエンス教室が発表した‘Enjoy SCIENCE! Enjoy ECO!’が特別賞を受賞しました。発表内容は、当教室がモットーとする「科学&ものづくりを楽しく学習すること」の中で、今回は「宇宙を体験してきた」メダカとアサガオの紹介や偏光万華鏡作りなどでした。

この発表が契機となり、最近星薬科大学構内の銀杏の実を拾い、その実を植え、盆栽用の苗に仕上げています。

余った沢山の銀杏は、町会の交流会で食べたり、ビンゴゲームの景品にして話題を広げました。

星薬科大学の通学路になっている町会会館前に、展示をしようと、現在育てています。

また、自宅を建て替える町会会員から、庭の杏（アңыз）の大木の大きな実をいただきました。食べてみたらおいしかったので、町会会館の前で種を植えました。芽がでてくるのが楽しみです。



宇宙朝顔



宇宙朝顔



星薬科大のイチヨウの苗



あんずの種植えつけ

平成26年8月20日

志賀 勝（記者NO.060110）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年08月28日

## 手作りのフラワープランター

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年09月02日

平塚二丁目町会では、講師の指導の下で「手作りのフラワープランター」を作りましたので、作り方の手順をご紹介します。

◆新聞紙を裂き、数時間水に漬ける。



◆ミキサーで細かく粉碎する。（下左写真）

◆漉す、水を絞り切る。（下右写真）



◆川砂（セメントの量の25%目安）とセメントを加え、良く混ぜる。

◆墨汁を入れ着色し、更に良く混ぜる。

◆型（土台）に貼り付ける。土台は、発砲スチロールカップ



◆底に穴を明ける。



◆土台をつけたまま自然乾燥する。（約1週間）



◆固まったら発砲スチロールカップをはずす。

◆更に約1週間、しっかり自然に乾かしたら完成

◆周囲部の黒が、色落ちするので、油性ペイントで、模様などを描くと良い。

防水加工をしていないので、受け皿を使うと良い。

土台に針金を自由に曲げて骨格にし、周囲を包むと、自由な形の植木鉢や像などが出来る。

平成26年8月20日

志賀 勝（記者NO.060110）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年09月02日

## 聖蹟公園にて花壇の花植え替え

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年09月02日

8月26日午後2時から4時まで2時間、聖蹟公園にて花壇の花植え替えを行いました。7月、8月は太陽の光が強く、草花を植えても管理が大変です。植えても枯らすことが多く、今週に入り気温が多少下がったので実施しました。

参加者は5名で、ニチニチ草、サルビア、メランポジュウム、ペンタスの4種類の草花を、植える間隔や花の色など全体のバランスを考えながら行いました。



花植えの開始前に草抜きをして、土を柔らかく起こしてから植え替え開始。雑草の量は45リットルゴミ袋4袋分になりました。



草花一つひとつをプランタから取り出し、固まっている根を手で柔らかくもんで、植えていきます。



今にも雨が降り出しそうな空でしたが、降られることもなく、約2時間の作業、無事きれいに植えることができました。

最後に参加者で記念撮影です。



#### 花壇全体の撮影と記念撮影

今回は、ボランティアで学生さんが参加、さすが若いせいかわ腰が痛いという人がいなく、笑顔でポーズをとってくれました。

平成26年8月27日

小野文義（記者NO. 090107）

---

**カテゴリ：**平成26年度

**投稿日：**2014年09月02日

## 身近に農ある暮らしを！～区民農園マイガーデン南大井～

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年09月11日

9月に入りようやく秋風が感じられるようになりホッとしている一方で、不安定な天候は、依然として続いています。今までに経験したことのない・・・、猛烈な・・・、記録的な・・・などと怖いほどの形容詞が頻繁に付けられるようになったこのところの気象条件は、ますます不安定さを増して日常の暮らしを脅かすようになったような気がします。また災害の発生も凄まじく残酷なものになっています。私たちは自然とどう向き合っていけばいいのでしょうか。

さてそのような天候の中にあってもすくすくと育ち、新鮮な食となって毎日を楽しませ元気づけてくれる区民農園の様子をお伝えしたいと思います。

狭き門をくぐり抜けて、今年4月から「区民農園マイガーデン南大井」での自給農体験を楽しんでいる。この区民農園は、南大井一丁目、第一京浜沿いにあり、みなみ大井児童遊園の敷地内に10◇程の区画が32整備されている。もちろん農地ではなく遊休地利用の区画なのだが、とても応募者が多く人気の農園である。農具や水道も完備し、栽培方法が解らなければ指導員に聞くこともできる。利用期間は、一年間。当初は国道沿いなので公害まみれ？などと敬遠していたが、周辺にはしながわ区民公園や地域センターなどがあり木立が多く、道沿いには遊園広場や花壇、植え込みなどがあって隔離されているので心配無用。農園の中で作業をしていると里山の畑にいるような気分になる。



農園全景。緑一面の農園は、どこの区画も豊作模様



秋を告げる花々。農園前広場には、老人会が管理し、交代でお世話している花壇があり、季節ごとに咲き誇る花の綺麗なこと！

僅かな広さではあるが、難関突破者だけに利用者たちはみなとても熱心で、栽培品目も多種多様。区画を眺めているだけでも楽しい。私の区画では、小松菜、春菊、ルッコラ、ラディッシュ、じゃがいも、トマト、きゅうり、しそ、インゲン、なすなどが収穫できた。肥料も有機肥料のみ。もちろん農薬も不使用。現在も人参や里芋、しそ、生姜、みょうが、ごぼう、ねぎなどが元気に育っている。



晩秋の収穫が楽しみな里芋たち！

左隣は、シソ。株元には、しょうがとみょうが

採れたてのきゅうりとトマト

9月に入ってもまだまだ取れそう

仕事帰りに寄って、生育状況を見たり収穫したりできるので立地条件抜群の都会の農園といえよう。土と緑が仕事疲れを癒し、食材は採れたてで美味しく、里山での農作業気分まで味わえる都会の農園。更にコミュニティー。利用者とのおしゃべりは、栽培のことや地域のことなど話題は尽きない。

来週は、秋冬野菜の種まきだ。秋じゃがいも、大根、白菜、ほうれん草や小松菜などを予定している。

ぜひぜひみなさんも来年は狭き門の扉をノックしてみたらいかがでしょうか。

平成26年9月9日

茂呂まゆみ（記者NO.130103）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年09月11日

## どんぐりの里帰り

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年09月18日

昨年、軽井沢で拾ったどんぐり(マテバシイ、シラカシ、他)が、6本15cm位になったので、今年（軽井沢へ）「里帰り」させました。育ってくれるといいなと祈りながら。



新築の戸建の植込みにシラカシが植えてあるのをみると、潮風の影響はないのかしら？植木屋が活躍した江戸、明治でも品川あたりにシラカシを植えたのかしら？等と思ったのですが、知り合いの建築屋さんに聞くと、昨今とても人気の木で、山地でも都心でも平気だそうです。なァ～んだ！と、がっかりやら、安心やらでした。

このところ一気に気温が下がり、周りの方々から寒い、上着が必需品、イヤだ～等と声が出ますが、私はやっと一息つけた気がしてホッとしております。残暑の季節が終わりかけており、今は私にとってイノチノセンタク日和というところです。



上の写真は、五反田のN T T東日本関東病院のシラカシ林？です。

他にもいろいろな樹木があり、鳥たちがいつもは芝生を集団でつついていますが、この日は天気（曇り）のせいか、ひっそりとしていました。

平成26年9月12日

S（記者NO. 130101）

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年09月18日

ふくしまの「人」と「めぐみ」に会いに行こう！に参加して～“チームふくしま”と行く！日帰りバスツアー～

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年09月26日

9月6日（土）、「野菜ソムリエコミュニティ福島」主催の上記ツアーに参加してきました。

“チームふくしま”というは、日本野菜ソムリエ協会が福島県の農家を応援しようとして立ち上げた組織で、福島県の農業者、料理研究家、シェフなどとの交流を通して、食と農による福島県の復興を支援していこうというものです。

そのソムリエの一人が昨年、一昨年の有楽町駅前における福島復興イベントに関わっていただいた関係からお知らせいただき、行政書士会広報部長、私も含め、3人が参加しました。参加者は全部で38人くらいだったと思います。若い方からご年配の方、男性も女性もありとバラエティに飛んだ顔ぶれでした。

訪問したのは、郡山市農産物直売所「ベレッシュ」。ここでは、農家が持ってきた全品目の放射性物質検査ができるよう、3台の検査機が置かれていて、自由に検査場が見学でき、安全な果物や野菜を買うことができます。



←郡山市農産物直売所

「ベレッシュ」

↓放射線検査場



次に行ったのは、磐梯熱海温泉「華の湯」。ここは福島の野菜を使った70種類を超えるランチビュッフェで有名です。食後は、ホテルの会場で「ふくしまの今を知る」と題し、ホテルの支配人、シェフの福島の食材にかける情熱を語っていただき、さらに、飯館村から避難し、避難者のかーちゃんたちを集めて食からの復興を推進している「かーちゃんのカプロジェクト」会長渡邊とみ子さんのお話を、スライドを見ながら聞きました。震災、原発事故の中から不屈に立ち上がるかーちゃんたちの奮闘には涙が出る程でした。



渡邊とみ子さん（前列中央）

最後は、郡山ブランド野菜を作っている圃場を見学。ブランド野菜の試食会に参加し、自慢の枝豆を収穫しました。見たこともない野菜の多さとその美味しさに感動。持ちきれない程の野菜を買って帰りました。福島県の農業が、力強く前へ前へと進んでいることを実感しました。



ブランド野菜



枝豆の収穫

もちろん、これが福島県の現状のすべてではなく、帰宅困難地域がたくさんあり、汚染された土や瓦礫を県内で貯蔵しなければならないなど、たくさんの問題も抱えています。それらを一つ一つ解決しながら、一方で地域の再生、コミュニティの復活による人間らしい生活を取り戻すこともやっていかなければなりません。こうしたことを学ぶことのできた良い機会でした。皆さんも現地を訪れ、現地の人たちと交流することで、福島をもっと知ってもらいたいと思います。

平成26年9月11日

新居 邦明（記者NO.100105）

---

**カテゴリ:** 平成26年度

**投稿日:** 2014年09月26日

## 「生産性が上がりコストが下がるオフィス・工場のカシコイ省エネ術」セミナー

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年09月26日

旧聞に属する話で恐縮ですが、4月15日（火）私が所属する東京サラヤ◆は、日比谷総合設備◆と共同開催で、刈込・工場向けの「省エネセミナー」を開催しましたのでご報告します。

プログラムは

◆日比谷総合設備・・・トータルソリューション

◆ヴェリア・ラボラトリーズ・・・エネルギー使用量見える化

◆東京サラヤ・・・適正な照明計画（こちらを私が担当しました）

その他に省エネ企業の事例発表会・電子黒板のお披露目・熱中症対策グッズ紹介などを盛り込み、70名程ご参加いただけました。

講座風景



今回のセミナーは建設業界紙でも取り上げられ、建設業・電気メーカー・商社・製造業などからの参加者も多く、より専門的な内容となりました。

東京サラヤ◆からは、辻本が「適正な照明計画」を担当しました。

昨今は節電から省エネに移り変わり、生産性や快適性を落とさないで、無駄を省くという事が重要で、レベルの高い対策が必要となってきています。

こういったセミナーを開催する事によって、情報発信と異業種交流ができる有意義な機会となり、「省エネ」というキーワードでお役に立てるテーマも見えてきます。

平成26年9月22日

辻本喜律（記者NO. 110101）

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年09月26日

## 常緑キリンソウによる屋上緑化の現状

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年09月26日

---

6年前、品川区の助成を受けて屋上緑化を実現しました。6年前に植えた常緑キリンソウの株の根本から、今年もたくさん新芽を出しました。

刈り取った常緑キリンソウは、熟成土壌と一緒に、株の座布団に入れますので、ゴミは全く出ません。完全な自己完結型再生のサイクルを実現しています。

葉が大気中から水分を吸収し、6年前から水撒きは一度もしていません。

真冬でも、今年の酷暑の中も、緑の葉をつけて、株は枯れません。6年間、自然に降る雨だけで育っているのです。驚くやら、勇気づけられるやら……

緑化効果は、室温を約2℃低下させます。真夏でも葉の裏側の影は冷たく感じ、よく猫が葉の裏側で休んでいました。今は屋上出入口に戸を付けていますので、猫は侵入しませんが。

今年の暮れから春にかけて、再び、一面が緑の絨毯となります。鳥取県知事はじめ、大勢の方々が見学を訪れています。



刈り取る前

作業中

熟成土壌投入作業後

平成26年9月25日

志賀 勝（記者NO.060110）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年09月26日

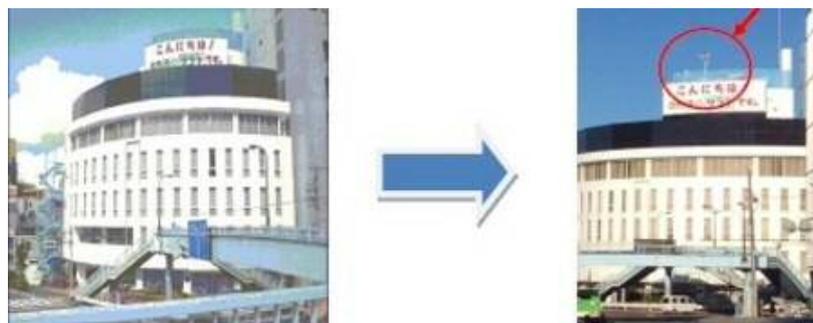
## 上を見上げてみよう、風車もあります、動いています

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年10月10日

このコラムには何回か登場している東京サラヤ株式会社。その本社社屋の屋上には、ソーラーパネルが城壁のごとく並んでいます。そこから、すっくと延びる槍のさきには三枚の羽。そして、それは風の吹いている日はくるくるとまわっています。

平成26年2月7日投稿の小野記者の「自社ビルの電力使用量減少について」の写真ではこの風車はないのです。これは、きっと電力のバージョンアップ戦略に違いがない、ということで同社にお勤めの小野さんに取材を申し込みました。



木目調のどっしりとした会議室で小野さんが質問に答えられました。

質問： 風力発電はいつ頃から始めたのですか？

答え： 去年の春です。

質問： 以前の写真にはソーラーパネルしか映っていませんが、太陽光発電はいつ頃

開始されたのですか？

答え： 一昨年八月です。

質問： 風力発電を追加した目的は？

答え： 環境にやさしいデザインを設計建設している関係会社の宣伝用です。

質問： 一機しかないのはそのため？

答え： 太陽光発電は計測して自社の電力用に使用していますが、風力発電は騒音および風力制限があるため、この場所ではあまり有効ではありません。

風力発電は羽が回転する際に高音のキーキーと鳥の鳴くような音がでるため、事務所まで響くそうです。また、風が強すぎてもだめ、無くてももちろんだめ。許容風力が3m—10mとのこと。

一方、太陽光発電についても面白いことを教えていただきました。パネルが壁のように直立になっていること、および位置が固定されているため、太陽光の収集効率があまりよくないそうです。これが原因で、なんと最大電力量は太陽サンサン八月ではなく、四月や十月に出るとのこと。今年の四月は出力電力量総計は1,292キロワットでした。



おまけとして教えていただきました。

一世帯当たりの年間電気使用量を5500kwh、松の木の年間二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)吸収量を14キロとすると、一世帯あたりの二酸化炭素を吸収するためには松の木が216本必要になるそうです。

◆電力使用量に対する二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量の計算

$5,500\text{ kwh} \times \text{排出係数}0.55\text{ kgCO}_2/\text{kwh} = 3,025\text{ kgCO}_2$

◆松の木への換算

$3,025\text{ kgCO}_2 \div 14\text{ kgCO}_2 = 216\text{ 本}$

歌川広重の浮世絵「三保の松原」には松がたくさん描かれていましたが、一世帯であれくらいの松の木が必要なようです。

日本の二酸化炭素排出量は2014年版エネルギー・経済統計要覧によると世界の約3.7%で第五位の1,174百万トン。松の木は、いったい何本必要になるのでしょうか？

平成26年10月7日

小滝静子（記者NO.140101）

---

**カテゴリ:** 平成26年度

**投稿日:** 2014年10月10日

## 「花交差点の仲間たち」 ボランティア活動中！

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年10月15日

9月に入り暑い日もありましたが、残暑がそれほど厳しくなく歩道花壇の花たちは、元気を取り戻しているように見えます。春から秋まで歩道を彩ってくれたこの花たちは、11月中旬には撤去され新しい花に変わります。

今年はペンタスが勢いよく咲いてくれて、環境にとっても強い花のようです。



南大井2丁目国道沿花壇



今年は70年ぶりに確認された「デング熱」もあり、ボランティア活動中に蚊に刺されないようスキンガードで対策しながら行いました。涼しくなると蚊もいなくなるそうですが、10月になっても花壇に水やりするとパーと何匹も飛び出してきました。まだまだです。

近くに廃ビル跡地が大きな水たまりになっており心配です。

9月初旬に品川区生活衛生課へ連絡し対処お願いしましたが・・・。綺麗になるといいですね。



しながわ水族館脇 廃ビル跡地

平成26年10月4日

真壁美枝子（記者NO.080103）

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年10月15日

## 元気がない品川の海

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年10月24日

---

品川区の海、ここ2年間ほどは全く元気がなくなりました。

品川区内の京浜運河がきれいになったと感じたのは1996年。今まで見られなかった内湾性の貝が現れ始めました。ところがこの2年間は、それらの貝の一部が見られなくなってしまいました。クレハガイ、キセワタガイ、ヒメシラトリガイ、ムギガイ、シズクガイ、ウチムラサキガイ、チヨノハナガイ、ウネナシトマヤガイ等、いずれも運河ではとても少産ですが、毎年見られていた貝が、最近は見られなくなっています。

水の色はきれいにはなっているのですが、何かしらの要因でこうなったと思います。

原因については良く分かりません。以前、運河で採取した水でクレハガイを飼育していた頃、水がとてもきれいで飼育には問題ないと思っていたら、クレハガイがショック死してしまったことがありました。一見きれいな様でもまだまだ水質が悪いのかも知れません。

また、長い間塩分の測定を続けていますが、2年位前に東京湾奥への流れ込みが2002年に比べるとかなり弱いながらもピークに達しました。今回はヘドロを押し流すほどの勢いが無かった様で、ただヘドロを巻き上げただけではないか、それが今回のような運河の中、元気がない原因ではと思っているのですが、はっきりとは言い切れません。

しかし、運河の中では今、何かが起こっている事は確かだと思います。海の動きの中では数年単位の動きは判らない、数十年単位の動きの中での変化かも知れません。長く見ていてもまだまだ判らない事がたくさん出てきます。

最近の中央海浜公園（2014年9月21日）と北埠頭橋全景（2014年10月5日）



平成26年10月23日

青野良平（記者NO.070103）



---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年10月24日

## 食欲の秋、幼虫には要注意！

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年10月24日

会社花壇の花や植木を社員で管理しながら、一年を通して草花が咲くように取り組んでいます。これはコンクリートばかりの近隣の環境が少しでも景観改善になり、自然の花や蝶などの昆虫が生息できる場所となれば考えて作っています。上段の写真は、以前花を植えかえたときの様子です。

最近、花壇にハバチの幼虫がいるのに驚きました。下段の写真は、左がハバチにあっていない植木、右はハバチが葉を食べてしまったあとです。ほんの数日でこのようになってしまいました。このあと殺虫剤で駆除しましたが、葉を一度噴霧するだけで幼虫が5、6匹ボロボロと落ちてきました。数百匹はいたのではないのでしょうか。

この時期、被害にあうことが多いとのこと、要注意です。



ハバチの幼虫

平成26年10月22日

小野文義（記者NO. 090107）

**カテゴリ:** 平成26年度

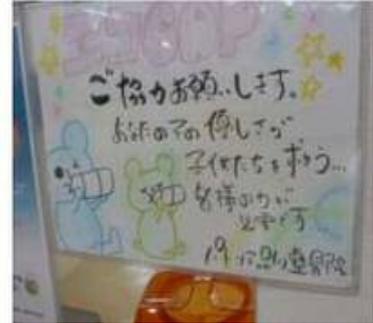
**投稿日:** 2014年10月24日

## ペットボトルのキャップを集めてワクチンを届けよう

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年10月31日

八潮団地にある『パトリア品川接骨院』の前を通った時、オレンジ色のボックスが目にとまった。『何だろう・・・』と思い、中を覗いて見ると、ペットボトルのキャップがたくさん入っていた。ポスターを見ると、キャップを集めて『世界の子供達にポリオワクチンを届けよう』と書いてあった。



ペットボトルのキャップを400個集めると10円になるそうです。ポリオワクチンは一人分が20円かかるので、ポリオの子供を一人救うのには、800個集めなければなりません。

「八潮団地に開院して以来、2014年10月現在で1,073,958個が集まりました。ワクチンに換算すると1,287人分になります。来院のお客様や通りがかりの人達にご協力を頂き、本当に有難い事です。皆さんと共に途上国にワクチンを届けることが出来、お役にたてれば・・・」と、お仕事の手空きにお話して下さった立木先生。そして、毎月エコ専用袋で7～8袋集まり、それを『エコキャップ推進協会』へ送る手続きをされているという受付の佐藤さんも、「皆様の優しい気持ちが嬉しいです」とおっしゃっていました。



もし、このキャップをゴミとして焼却処分すると、8,113 $\diamond$ のCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）が発生するそうです。焼却処分しないで分別をし、リサイクルすれば、CO<sub>2</sub>を出さない地球環境にも参加出来、また、大変価値のあるワクチンとして世界の子供達を一人でも多く救えるならば、私もぜひ協力しようと思いました。

**エコキャップ  
受領書**

2014年10月22日  
発行名: 西館

パトリア品川接骨院  
立本様  
ご住所: 東京都品川区八潮5-5-3  
パトリア2F  
FAX番号: 03-3799-7755

今回受領個数: **17,200 個**

累計個数: **1,073,958 個**  
ワクチン: **1,287.8人分**  
※累計のCO2: 8,113 kg

ご協力ありがとうございます。皆様のご厚意を大切に致します。

受取日	数量	個数(約)	備考
2014/10/15	40 Kg	17,200 個	
合 計		17,200 個	

累計個数 : 1,073,958 個  
ワクチン : 1,287.8 人分  
累計のCO2 : 8,113kg

平成26年10月28日  
環境記者 石田雅子 (NO.120102)

カテゴリ : 平成26年度  
投稿日 : 2014年10月31日

## 「エコロジア第一太陽光発電所」稼働開始

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年11月11日

私が自営致しております会社にて、千葉県袖ケ浦市で進めておりました60kW太陽光発電所（低圧）プロジェクトですが、9月19日に着工し、先週10月15日に無事東京電力に連系し、売電を開始致しました。

発電所名称は、「エコロジア第一太陽光発電所」と致しました。

建設にあたっては、お金で丸投げせず私も毎日欠かすことなく工事に関わりましたので、感慨もひとしおでした。

連系当日は天気が悪かったので翌日、今話題のラジコンヘリを使って発電所を空撮しました。



動画は <https://db.tt/0vBPxKka> です。

地域との景観調和のために企画したキンモクセイ、サツキツツジ、オオムラサキツツジの植栽や、ネットで見つけた安くて見栄えもそこそこの猛獣フェンスの設置状況です。



↓5年後の景観整備イメージ



支柱打ち込み段階になって、敷地のほぼ全体に地下15cm位のところに15cmの厚みのコンクリート打設が判明して除去に大変な目にあったり、搬入で来た大型トラックが水道管を踏んで破裂させたり、台風18号では飛散物によってフェンスがねじまがり、パネル上段まで、あるいは架台の裏全体に泥がかぶったりしてえらい目にあいましたが、近隣の人たちや業者にもいろいろ助けてもらえたこと等、たくさんのドラマが短期間にありました。

平成26年10月28日

林 彰一（記者NO.120101）

---

**カテゴリ**：平成26年度

**投稿日**：2014年11月11日

## 第25回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2014年11月14日

平成26年10月28日(火)、第25回環境記者情報交換会が開催されました。今回は、初参加の都甲さん、関根さんをはじめ7名の記者の皆さんが出席されました。

第1部では、インタメディア代表の佐山吉孝さんから「海あり、山あり、川あり チャンプルーなまち、しながわの魅力」というテーマでお話を伺いました。品川の多面的な魅力を辿るお話はとても興味深く、記者の皆さんから、この場に留めずもっと多くの方に聞いていただきたいという声が出ました。是非品川の町を歩いて新たな発見をしてください、と佐山さんは仰っていました。



第2部は、環境記者の皆さんの活動報告です。

【志賀さん】

平塚二丁目町会では、6年前に品川区との協同事業として花と緑の部を立ち上げ、屋上緑化や花いっぱい運動などに取り組んできました。その延長線上でエコプランター作りや、花の講習会を行っています。平塚二丁目町会サイエンス教室が、星薬科大学科学コンテストで特別賞を受賞したことを契機に、最近は大学構内の銀杏の実を拾いその実を植え、盆栽用の苗に仕上げています。

【小野さん】

大井ふ頭中央海浜公園でコノシメトンボを見つけました。トンボの数がめっきり減ってしまったようです。環境の悪化が影響しているのでしょうか。会社の花壇にハバチが棲みついて、ハバチに葉を食べられるという被害が出ていて要注意です。品川区内にある歩道橋がさびついていて使われていないのを見かけます。撤去して歩道にするとよいのではないかと思います。

【林さん】

私が自営している会社が千葉県袖ヶ浦市で進めていました60kW太陽光発電所（低圧）プロジェクトが、9月19日に着工し、10月5日に無事東京電力に連系し、売電を開始しました。三方良しをモットーに、当事者だけではなくまわりの方がハッピーになれるよう、地域貢献を意識して取り組みました。非常事態には地域に電力を供給できる体制を作り、今後植栽を増やしていき近隣の方に安らいでもらえる空間を作っていきたいです。

【都甲さん】

富士通テン株式会社の前任者より引継ぎまして、初めて参加させていただきます。品川について土地勘が無いのですが、佐山先生のお話から、品川が多面的な顔を持っていることがわかりました。今度東京都が主催しているお台場での植樹に会社で参加することにしています。会社としてどのような環境活動ができるかご教授いただけたらと思います。



【石田さん】

缶アートの展覧会を見ました。私たちが日常生活で捨てているものを新素材として作品に利用して素晴らしい造形作品が出来上がっていて、リユースの大切さを感じました。ペットボトルのキャップを集めて世界の子供たちにポリオワクチンを届けようという運動があります。焼却処分しないで分別をしリサイクルすれば、CO<sub>2</sub>を出さない地球環境にも役立ちます。私もぜひ協力しようと思いました。

【小滝さん】

一般区民の目で物事を見て記事を書いています。東品川二丁目のビルの景観の変化に興味を持ち、ビルの所有者の寺田倉庫さんを訪ねてお話をうかがいました。また、東京サラヤさんの屋上に新たに風力発電機が設置されていることに気づき、環境記者の小野さんに取材を申込みました。今後は、におい、音、味について見ていきたいと思っています。

【関根さん】

初めて参加いたします。水の問題に興味を持っています。漂着物学会に属しています。品川で生まれ育ったので、佐山さんのお話を楽しく伺いました。地元民という立場で記事が書けるかと思いました。



それぞれのグループ、または個人で意欲的に活動している様子や興味をもっている事柄についてご報告いただきました。環境記者の皆さんが交流し各々の活動が発展していくのは、喜ばしいことです。和気藹々とした雰囲気の中、意見や情報の交換が活発に行われ、今回も実りある情報交換会になりました。

---

**カテゴリ：**◆情報交換会

**投稿日：**2014年11月14日

## 素肌美追及の訪問

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年11月19日

---

東品川の海岸通りに昔からある品川育ちを訪問させて頂き取締役 商品企画部部长 佐藤公子氏よりお話を伺うことが出来ました。

1929年創業で東品川に本社・工場があり・日本初のクリーム状洗顔料を発売。品川の女性の多くが知っていて使っていて懐かしんでいるが今年85周年を迎えています。

創業者は、九州大分・別府の方で温泉の良さを知りながら育ったというだけに、そこから発想した硫黄成分を洗顔料に使用したところ、大変な人気でよく売れたのだが、歴史の中では戦争があり、ぜいたく品と見なされる等苦しい時もあったといわれています。 [http://www.nttcom.co.jp/comzine/no068/long\\_seller/](http://www.nttcom.co.jp/comzine/no068/long_seller/)

1951年は新たにが発売されて大ヒットとなりパスタシリーズが1960年から発売されています。

テレビのCMで4コマ漫画・白子さん黒子さんの漫画広告`おしゃれ問答`などが有名だったようです。

スキンケアの先駆者として肌の悩みを解決することが「素肌美」・美しい素肌を守ると信じて追求し続けて今日があると言われていました。

近年、自然派のために多くの化学製剤を使用せず日本の海底の粘土を使った「ロゼット洗顔パスタ海泥スムーズ・白泥リフト」やモロッコ ガスールの洗顔パスタ（海泥粉を練り込んでいる）やシンプルな（洗顔パスタ）も人気があるという。

品川育ちの化粧品は、その他時代の変化の求めに応じた製品が沢山ありますが根底に流れるのは、「素肌美」・美しい素肌を守るという理念があるということがわかりました。

今後も品川発信で全国に、世界で使われると思われれます。

会社は品質管理ISO9000・ISO9001認証取得し躍進しています。



ロゼット洗顔パスタ

平成26年11月13日

環境記者 K (NO.120104)

---

カテゴリ：平成26年度

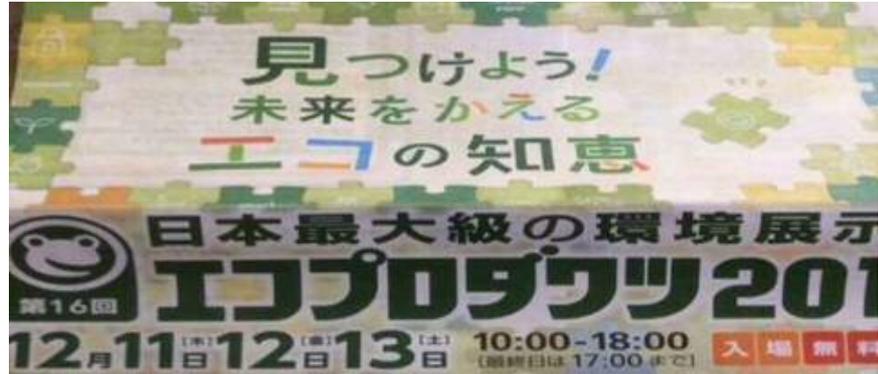
投稿日：2014年11月19日

## エコプロダクツ2014に行ってきました

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2014年12月26日

12月11日（木）-13日（土）東京ビッグサイトで開催された第16回エコプロダクツ2014を見学してきました。



700に及ぶ会社や団体・学校が参加していたそうです。電気自動車や太陽光・水力発電など環境に関する先端技術・有機栽培作物やオーガニック製品など環境に優しい物販・環境を大切にするNPOや大学・地域の取り組み事例などが展示され、講演会が催され、体験スペースが設けられていました。平日は小学生から高校生ままでいくつものグループが広い会場をさまざまな体験を通して楽しそうに環境問題を学ぶ姿は頼もしくさえ感じました。

今回、私はコード・フォー・カナザワ主催の「5374（ゴミナシ）を作ろう！ハッカソン」に参加しました。どのゴミをいつ出せばいいかすぐ分かるスマートフォン用アプリをみんなで作ろうというワークショップです。金沢で最初に作られたアプリで、それを元にして品川区の各町のゴミ収集日とゴミの種類と明細を細かく入力していくという手順。アプリなど作ったことのない私でも参加できました。もっとも時間の関係でさわりの部分の入力しかできませんでした。こんな方法なら、ITを身近に感じている若い方々が町の環境問題に進んで参加できるのかもしれない、と感じられたワークショップでした。



私たちの品川区も「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」のブース内にスペースが設けられ、みどりと水の取り組みについての展示がされていました。この東京都のブースではスタンプラリーが催されて、お土産に品川区の千社札と中吉のエコおみくじをいただきました。



平成26年12月23日  
小滝静子（記者NO.140101）

カテゴリ：平成26年度  
投稿日：2014年12月26日

## 植樹をしてみませんか

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2015年01月06日

---

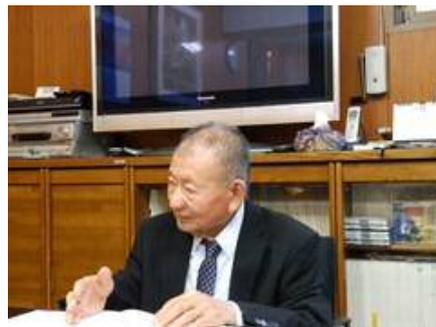
先日、私の仕事（行政書士）の関係で、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生とお話しする機会がありました。

宮脇先生は、国内はもとより、ポルネオなど世界各地で植樹を推進する現場主義の植物生態学者として、これまで国内外1700ヶ所以上で植樹を指導し4000万本以上の木を植えてこられました。徹底した現場調査によって、その土地に自生し、最も安定して存続する樹種群（潜在自然植生）を探し出し、それらの苗を育て、多種類の苗を密植・混植させ、自然の成り行きに任せて競争・共存させ、自然の森のような状態に戻す手法（宮脇方式）を提唱、実践しています。その手法によって、それまでは何百年もかかるといわれていた森の再生が、十数年という単位で成功することを証明したのです。

地球規模の森林破壊や地球温暖化が加速、自然のやり戻しである大災害にも負けない豊かな森を再生することを緊急の課題とし、すべてのヒトのいのちと心と遺子を守り、地域、経済、豊かな社会を支える”いのちを守る本物の森づくり”、“いのちを守る森の防潮堤づくり”を提唱しています。

最近では、東日本大震災で失われた防潮堤の代わりに、震災ガレキを利用して高さ10メートルのマウンドを作り、その上に土地本来の樹木である「ふるさとの木」（シイ・タブ・カシ類）を植える、岩手県から福島県まで400キロにわたる宮脇方式による森の長城（緑の防潮堤）を作ることを提案し、「公益法人森の長城プロジェクト」結成。その副理事長として、この提案を実施しています。政府や各県などが計画している最高14.7メートル、総延長約370kmのコンクリートによる防潮堤と異なり、緑の防潮堤は、津波の衝撃を吸収し、被害をくい止めると同時に、豊かな自然林を形成し、数千年間地域の環境を守るものとして提案されています。すでに幾つかの地方自治体で、取組みが始まっています。

私や行政書士会もこの計画の一端を担うつもりで、現在森の長城プロジェクトとの話し合いを進めています。皆さんも自宅の周り、会社の敷地に宮脇方式による植樹をしてみませんか。



宮脇昭先生

平成27年1月5日

新居 邦明（記者NO.100105）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2015年01月06日

## しながわ花海道からラベンダーを移植

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2015年02月06日

---

しながわ花海道（勝島運河）花壇の下段を芝桜に統一することになり、育てていたラベンダーを撤去せざるを得なくなりました。他のグループからのラベンダーも分けて貰えなくなり、恒例となっていた「ラベンダークラフトづくり」は断念することになりそうです。昨年10月のことですが、ボランティア5人でラベンダーを掘り出しましたが、根が深いので苦労しました。花海道寄りにあるマンション前の歩道花壇に5株ほど移植しました。根がつくか心配していますが、寒い時季なので状況がよめません。

花芽をつけたら、花の数に合わせたクラフトづくりを続けられたらと・・・  
わくわく楽しみです。



移植前：しながわ花街道



移植後：南大井2丁目国道沿い歩道

平成27年2月4日

真壁美枝子（記者NO.080103）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2015年02月06日

## 「花いっぱい運動」の近況報告

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2015年02月13日

平塚二丁目町会の「花いっぱい運動」の近況をご報告いたします。

常緑キリンソウを使った屋上緑化に取り組みはじめて6年目に入りましたが、昨年末初めて再生土壌の補充作業を行いました。これまでは、購入した土壌だけで常緑キリンソウを育ててきましたが、さすがに6年が経過すると土も痩せてきますので、補充作業が必要になりました。下の写真の「株の座布団」には熟成土壌がバケツ1杯分必要で、6年間に消費した土の量に驚きました。

刈り取った常緑キリンソウは、熟成土壌と一緒に「株の座布団」に入れますので、ゴミは全く出ません。また、葉が大気中から水分を吸収するため、水撒きは不要です。

一年中緑の葉をつけて、株は枯れません。これまで5年間、自然に降る雨だけで育っています。また、階下の室温を約2℃低下させるという緑化効果もあります。



再生土壌補充作業

「株の座布団」



サクラソウ



パンジー

チューリップ



ムスカリ

園芸高校から仕入れた花苗使用

常緑キリンソウの育ち具合が異なります。



日当たりの良い道路に面して



屋上で日当たりは良いのですが、気温が低いのか？



アネモネ



中原街道の歩道に面して置かれているECOプランター。町会配布のパンジーやムスカリなどが植えられ、順調に育っています。苗が大きく育ったら、町会が町会会員に貸し出しているECOプラターへ植え替えます。街中が花いっぱいになるのが楽しみです。

平成27年2月10日

志賀 勝 (記者NO.060110)

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2015年02月13日

## 小さな春をみつけた！！京浜運河&花海道を歩く

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2015年02月13日

---

暦の上では立春も過ぎましたが、まだまだ春浅い京浜運河や花海道へ小さな春を探しに出かけてみました。

冬枯れの運河の土手にも草が少しずつ伸びはじめ、緑が増えて来ましたし、運河の水面もなんとなく、ぬるんで来たような気がいたします。



花海道は厳しい寒さにもめげず、いろいろな花が咲いており びっくりでした。時期外れの丈の短いコスモスの花の可憐なこと、「よもぎ」も枯草の中から葉をひろげ、元気だよ・・・と言っているようです。

「ほとけのざ」や早咲きの「菜の花」を見つけた時、ほのかに春の息吹を感じるほどでした。暖かな春はまだまだ遠いけれど、花海道を歩き、小さな春を見つけ楽しむ事が出来ました。



平成27年2月12日

環境記者 石田雅子 (NO.120102)

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2015年02月13日

## 大崎ひまわり保育園の屋上緑化

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2015年02月17日

大崎ひまわり保育園（品川区大崎3-1-9）は、社会福祉法人戸越ひまわり福祉会が経営している保育園（3階建敷地350◆）で、平成26年4月園児数70名定員で開園しました。

屋上には、現在セダムが約45平方メートルに渡って植えられています。夏場にかけてセダムが枯れてくるので、セダムの中に園児がさつま芋の苗等を植え、日々さつま芋の成長を見守りながら収穫を体験し、給食等で食べることによって食事に興味を持つ「食育」につなげたいと思っています。尚、水は貯留タンクに溜めた雨水を再利用しています。昨年4月建設完了後、11月に園入口と園庭にECOプランターを設置しています。

ムスカリやアネモネ等の球根を、水遣り不要のECOプランターの中で芽を出させ、開花が待ち遠しい日々を送っています。また、植栽の病害虫予防処置は、春になる前の2月末に実施する予定です。

一連の植栽関係は、平塚二丁目町会が取り組んでいる「花いっぱい運動」で6年間の実績があり、品川区の花の講習会講師を務めている原由紀子先生に指導を受けております。土は、生ゴミを使った再生土壌に、園芸用黒土を混ぜたものを使用しました。今年度は、平塚二丁目町会で実績のある再生土壌作りに挑戦したいと思っています。

私が環境記者に応募した動機が保育園の緑化でしたので、これらの展開は、環境記者の皆さんから頂いた各種情報を参考にしています。当初、自分が想像していた以上にネットワークが広がり、協力が得られておりますので、中野区の保育園やその近隣町会も含め、「花いっぱい運動」による地域交流の中から、安心安全の街づくりになることを願い、今後も地域の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えております。



（左）大崎ひまわり保育園屋上緑化 セダムが植えられています

（右）大崎ひまわり保育園正面入口

平成27年2月10日

志賀 勝（記者NO.060110）

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2015年02月17日

## 奄美大島の貝

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2015年02月17日

12月と1月に奄美大島に行って来ました。

奄美大島に土浜という海岸がありますが、そこは日本で最も多くの種類の貝が打ち上がる海岸と言われています。私は1993年から結構な頻度で行っていますが、近年異常なほど貝の打上が見られなくなりました。ここ5年では行く度に貝の打上が減っており、今年の1月に行った時にはとうとう貝はほとんど見られない状況になってしまいました。海流が変わって貝が打ち上がらなくなってしまったとの話も聞きますが、別の海岸では種類が変わって来てはいますが、変わりなく打ち上がっています。ただとても小さい微小貝が同じように減っている感じも受けています。海に何か変化が起きている感じです。



奄美大島 土浜海岸

ちょっと気になったので、海に打ち上がるプラスチックゴミ等、奄美と逗子・鎌倉海岸との違いを見てみました。奄美の方はプラスチックが破片化し、逗子・鎌倉は塗料系が多く見られました。



奄美のプラスチック片 大



奄美のレジンペレット



奄美の発泡スチロール等小さい破片



逗子・鎌倉海岸のゴミ

なおレジンペレットは京浜運河を含めどこの海岸でも見られています。

平成27年2月12日

青野良平（記者NO.070103）

---

カテゴリ : 平成26年度

投稿日 : 2015年02月17日

## 埋立地を美しい森に！東京港「海の森」秋の植樹まつりに初参加

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2015年02月17日

---

11月16日、私が所属する富士通テン株式会社 東京事業所では環境貢献活動の一環として、東京湾「海の森」で開催された秋の植樹まつりに参加し、約2時間でタブノキ、松などの防風、防潮効果の高い苗木約250本の植樹を行いました。

今回参加した植樹まつりは、東京都港湾局が推進する「海の森プロジェクト」の一環です。

このプロジェクトは、東京湾に浮かぶゴミと建設発生土で埋められた中央防波堤埋立地に48万本の苗木を植え、美しい森に生まれ変わらせる取り組みで、2016年に完了予定です。苗木は、都民の皆様や民間企業からの募金によって調達・植樹されています。

今後も、地域に根ざした環境貢献活動に取り組んでまいります。



約88ヘクタール（日比谷公園の約5.5倍）の広大の土地に植樹します

平成27年2月13日

都甲 光洋（記者NO.120102）

---

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2015年02月17日

## 大井町自然再生観察園便り

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2015年02月18日

1月下旬の大井町自然再生観察園では、まだ冬の寒さが残っていますが、ふきのとうの芽が出て、春の訪れを感じられます。また、梅の花が咲き始め、こぶしのつぼみが大きくなるなど、春に向けて植物たちの準備の様子もうかがえます。

4月には川沿いにシャガの花や紫色のオオアラセイトウ、白やピンクのハナミズキが咲き、青々としたフキの様子も見られます。開園は毎週木曜13時～16時30分です。

今年も5～6月にホタルの夕べの開催を予定しております。

お近くに来た際には、お立ち寄りください。



芽を出した“ふきのとう”



4月の大井町自然再生観察園の様子

平成27年2月17日

小澤 良水（記者NO.130105）

## 第26回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2015年02月27日

平成27年2月19日(木)、第26回環境記者情報交換会が開催されました。今回は、7名の記者の皆さんが出席されました。

第1部では、インタメディア代表の佐山吉孝さんから「新旧が交差するまち、品川宿の魅力」というテーマでお話を伺いました。



第2部は、環境記者の皆さんの活動報告です。

### 【志賀さん】

平塚二丁目町会の「花いっぱい運動」で常緑キリンソウを使った屋上緑化に取り組みはじめて6年目に入り、昨年未初めて再生土壌の補充作業を行いました。刈り取った常緑キリンソウは、熟成土壌と一緒に「株の座布団」に入れますので、ゴミは全く出ません。また、葉が大気中から水分を吸収するため、水撒きは不要です。一年中緑の葉をつけて、株は枯れません。階下の室温を約2℃低下させるという緑化効果もあります。昨年開園した大崎ひまわり保育園でも屋上緑化に取り組んでおり、「花いっぱい運動」での経験が生きています。

### 【青野さん】

12月と1月に奄美大島に行って来ました。土浜という海岸は、日本で最も多くの種類の貝が打ち上がる海岸と言われていますが、近年異常なほど貝の打上が見られなくなりました。海流が変わって貝が打ち上がらなくなってしまったとの話も聞きますが、別の海岸では、変わりなく打ち上がっています。海に何か変化が起きている感じです。海に打ち上がるプラスチックゴミ等、奄美と逗子・鎌倉海岸との違いを見てみました。奄美の方はプラスチックが破片化し、逗子・鎌倉は塗料系が多く見られました。

### 【真壁さん】

「花交差点の仲間たち」の活動は12年目になります。国道沿いという環境で育つもの、次回の植栽までの半年間もつもの、となると植えられる品種が限られてきます。また、しながわ花海道（勝島運河）花壇の下段を芝桜に統一することになり、育てていたラベンダーを撤去せざるを得なくなりました。昨年10月のことですが、ボランティア5人でラベンダーを掘り出し、花海道寄りにあるマンション前の歩道花壇に5株ほど移植しました。根がつくか心配していますが、花芽をつけたら、恒例となっていた「ラベンダークラフトづくり」を続けられたらと楽しみです。

### 【林さん】

昨年10月に稼働開始しました袖ヶ浦の第一太陽光発電所では、地域との景観調和のためにキンモクセイ、オオムラサキツツジなどの植栽をしました。発電所の雑草は、近くにあるドイツ村のヤギやヒツジのエサとして有効活用できればと考えています。千葉に2つめの発電所を作ることになりました。ソーラーシェアリングを取り入れた3番目の発電所も計画しています。また、武蔵小山の環境を考える会の事務局長として、放射2号線（特定整備路線）という道路問題に取り組んでいます。



### 【都甲さん】

11月16日、私が所属する富士通テン株式会社 東京事業所では環境貢献活動の一環として、東京湾「海の森」で開催された秋の植樹まつりに参加し、約2時間でタブノキ、松などの防風、防潮効果の高い苗木約250本の植樹を行いました。東京都港湾局が推進する「海の森プロジェクト」の一環です。今後も、地域に根ざした環境貢献活動に取り組んでまいります。

### 【西川さん】

韓国、ベトナムに出かけ、街路樹が自然のままに伸び伸びと育っているのが目につきました。桜田通りでは、野にあるように自然な感じで道路に花が植えてある場所があります。このような感じで街路樹や花壇を作るのもよいと思いました。

### 【石田さん】

まだ春浅い京浜運河や花海道へ小さな春を探しに出かけてみました。冬枯れの運河の土手にも草が少しずつ伸びはじめ、緑が増えて来ましたし、運河の水面もなんとなく、ぬるんで来たような気がいたします。花海道は厳しい寒さにもめげず、いろいろな花が咲いており びっくりでした。丈の短いコスモス、よもぎ、ほとけのぎ、や早咲きの菜の花などを見つけました。



それぞれのグループ、または個人で意欲的に活動している様子や興味をもっている事柄についてご報告いただきました。佐山さんからは、皆さんの個々の専門領域がどんどん深まってきていて、素晴らしいお話が聞けるのが楽しみです、とのお言葉をいただきました。和気藹々とした雰囲気の中、意見や情報の交換が活発に行われ、今回も実りある情報交換会になりました。

---

**カテゴリ：**◆情報交換会

**投稿日：**2015年02月27

## 五反田リバーステーション（仮称）計画

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2015年03月25日

3月11日の区広報に掲載されている「五反田リバーステーション（仮称）」計画に接し、不動前駅から目黒川に沿って歩いてみました。

山手通りを渡り、亀の甲橋から下流に向かって左岸の荏原調節池・地下鉄地下水排出口・右岸の品川用水排出口はいずれも現役でした。

さて何処に観光栈橋が架かるかは分かりませんでした。目には見えない地下に、品川トンネル、都営地下鉄線、りんかい線、その他各インフラが私たちを支えています。

この半世紀にわたって人間が変えてきた環境が、今後半世紀先にはより良くなるよう共に考え行動したいと思って歩いていたら、河口付近で水鳥さん達が迎えてくれました。



亀の甲橋から上流を望む



地下鉄地下水排出口



目黒川河口付近

平成27年3月18日

関根輝彦（記者NO. 140102）

カテゴリ：平成26年度

投稿日：2015年03月25日